

TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構

NICT 先端研究

98

スマートフォンで空気のようにはメッセージや写真をSNSやクラウドで共有し、気になる情報は即座に得ることが出来る現代において、携帯電話、インタ

ーネットが使えなくなっている人も多いのでは、理・制御をしており、ための通信手段として、これらに依存せずとた世界を想像するこ ないだろうか。そこから枝分かれして、これらに依存せずとはできるだろうか。 普段我々が利用して 広がる形（スター型） 彼の通信手段を確保す東日本大震災では、被 いる通信手段は万全と のネットワークである 必要がある。 災地で実際にそのよう は言えない。それは、 ことに起因する。災害 私、この課題を解な状況に陥った。被災 インターネットと利用 発生直後から対応を迫 決する新たな通信システ外でも、携帯電話が 者をつなぐアクセス回 られる国・自治体など テム・アーキテクチャ繋がりにくい状況が続 線（携帯電話や戸別光 は、被災状況を速やか ーの研究をしている。いたことは記憶に残つ 回線など）は、集中管 に把握し、支援を行う その一つがNerve

災害に強いネット網構築

耐災害ICT研究センター！
応用領域研究室主任研究員 **大和田 泰伯**
大学院博士課程修了後、新潟大学特任助教を経て、株式会社スペースタイムエンジニアリングを設立。社長業と共に通信系シミュレーターの開発を行う。2010年よりNICTに入所。NerveNetおよび自律分散システムの研究開発に従事。博士（工学）。



NerveNet装置の設置イメージ

Netである。Ner たとしてもネットワイ veNetは、国・自ク全体に影響を与えな 治体などが自ら運用す い、障害に強いネット ネットワークであ ワークを構築できる。 さら、装置自身が り、切れにくい網の目 他に装置と連携してア むことができ、集中管 プリケーションサービ 理・制御を行う装置は スを提供する機能を持 存在せず、全ての装置 つ。これにより、従来 が等しく同じ機能を持 はインターネットにつ ち連携して動作するこ なならないと利用でき とで、どの装置が壊れ なかったアプリケーション 機能でさまざまな用途 に対応できる反面、運 用面での複雑さが課題 でもある。

私は、誰でも簡単に 繋げ、使えるネットワ ークの実現へ更なる研 究開発を進めている。

（火曜日に掲載）

科学技術・大学